

○第12回歯科医療提供体制等に関する検討会
第3回歯科医師の適切な配置等に関するワーキンググループ（合同開催）

地域支援型歯科診療所としての 取り組みについて

日時：令和7年10月16日（木）
17時～19時30分 開催方法：オンライン

香川県木田郡三木町
医療法人社団蓮成会

蓮井歯科・ファミリークリニック
蓮井義則

内容

1. 歯科医療を取り巻く現状について
2. 現状を踏まえ、2040年を見据えた際の課題や今後起こるであろう変化等について
3. 現状や課題等を踏まえ、考えられる歯科医療提供体制の姿やそのために必要な対策等について
4. 当該分野・領域で、今後さらに発展すると考える治療内容等について
5. その他

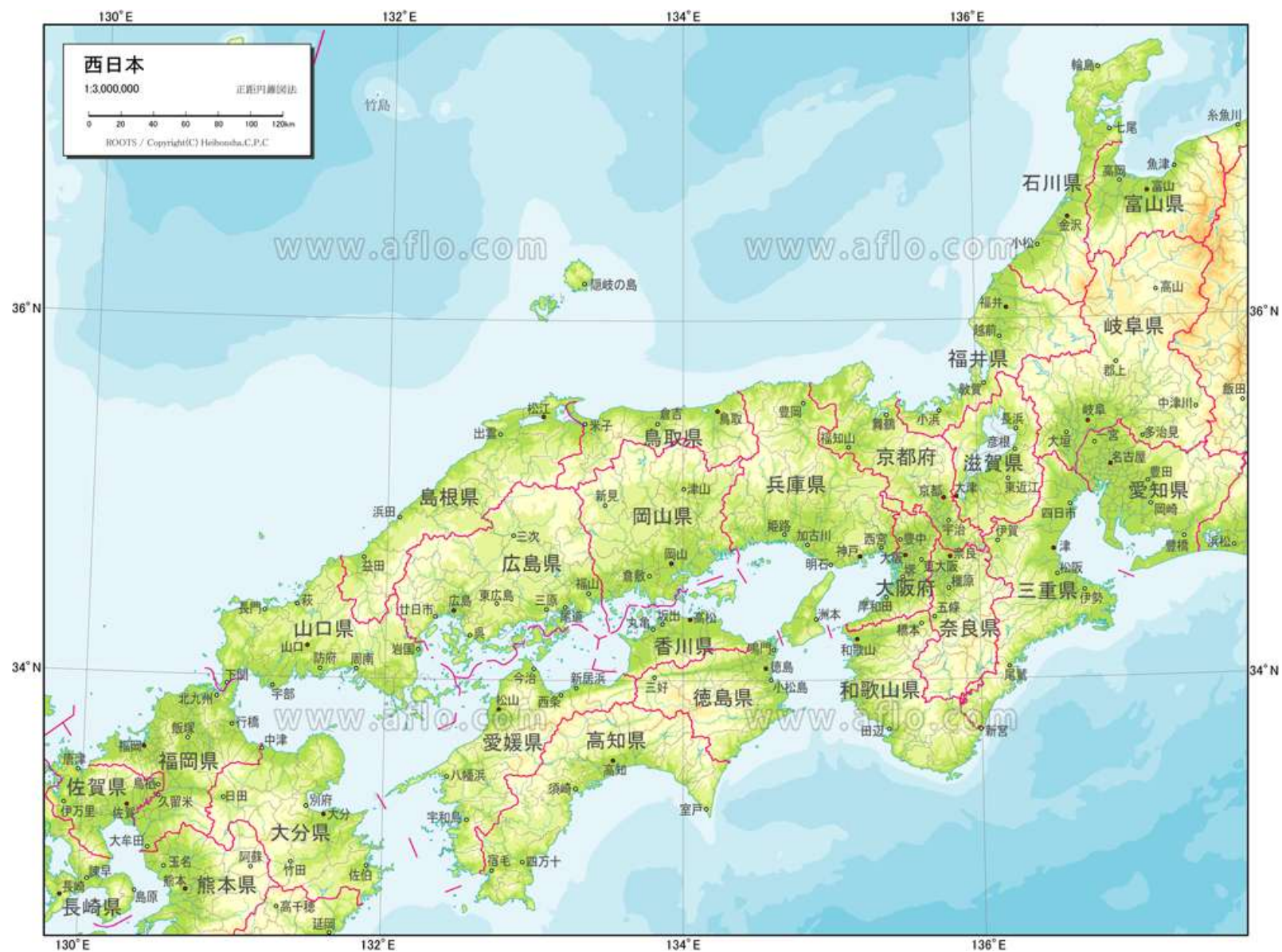
地域支援型歯科診療所（1.25次歯科診療所：仮称）のモデルケース

医療法人社団 蓮井歯科・ファミリークリニック（香川県三木町）

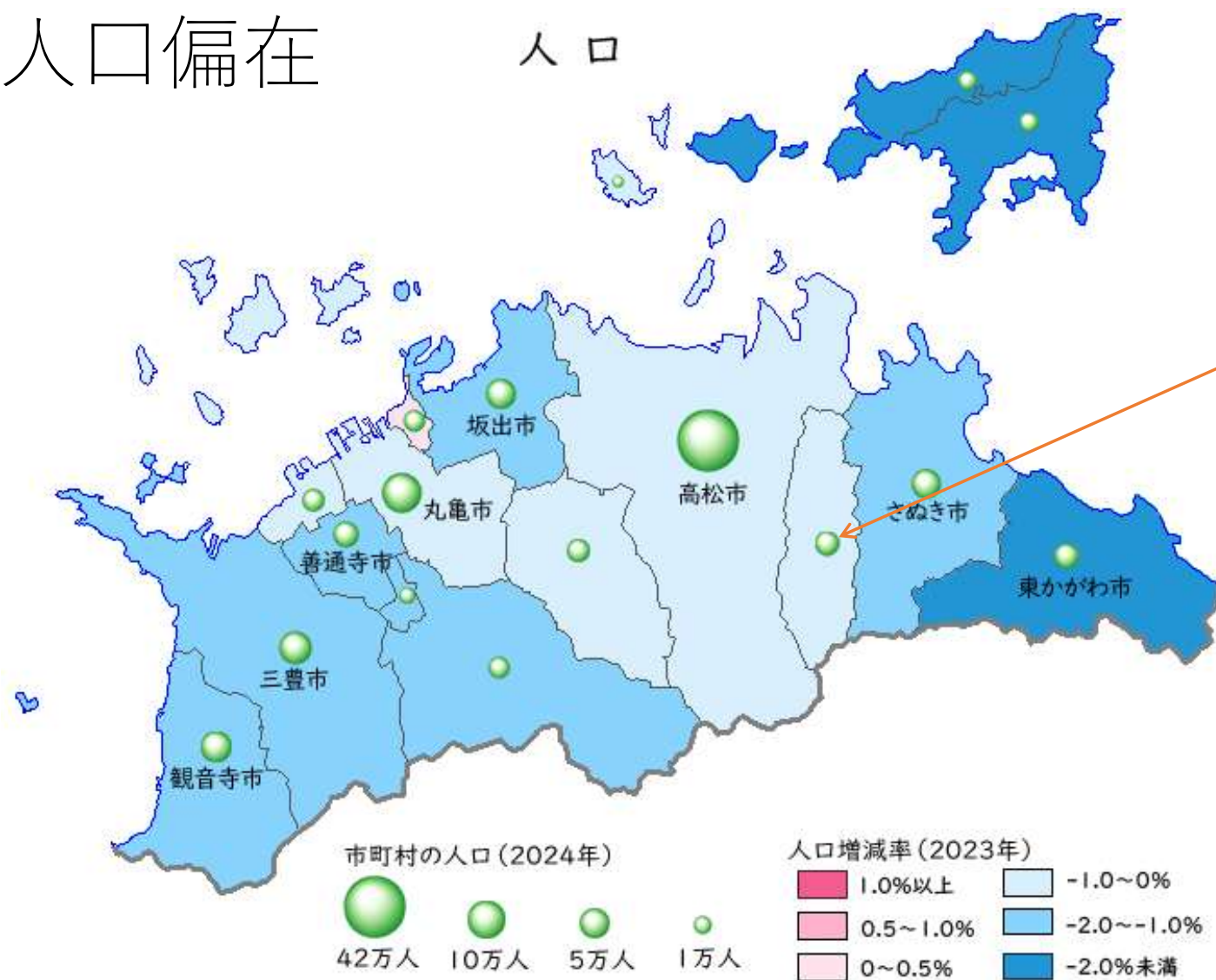
<地域情報> 人口 26,878人，人口密度 354.7人/km²，人口増減率 -2.9%，高齢化率 31.5% 歯科施設および歯科医師数/人口10万人：37.2施設130.2人 ・ 歯科医師8名（インプラント専門医1名） ・ 学会認定医（障害者歯科1名/歯科麻酔 1 名/矯正歯科 1 名） ・ 訪問歯科診療も含めた総合的な歯科医療を展開している ・ 地域連携：地域の歯科医院，医科医療機関，福祉施設（協力歯科医），学校（校医，園医）

地域支援型歯科診療所（1.25次歯科診療所：仮称）の特徴

「地域歯科医療を支援する」という観点から、本委員会において選出した医療機関には以下のような特徴があった。Ⅰ歯科専門医が常勤し、その専門性を活かした歯科医療と地域連携を行っていた。Ⅱ歯科医療資源が不足している地域に設置されていた。Ⅲ常勤歯科医師1名の施設では、広告可能な歯科専門医の資格を有していた。Ⅳ複数の歯科医師が常勤している施設では、様々な学会の専門医や認定医の資格を有していた。



香川県の人口偏在



香川県三木町の歯科医療施設

- 歯科医院数：10医院
- 内訳 一般歯科診療所 7 医院
- 矯正歯科中心歯科診療所 1医院
- 口腔外科専門歯科診療所 1 医院
- 多機能歯科診療所 1 医院
- 香川大学医学部附属病院：歯科口腔外科

専門性の必要な治療患者の来院

当院



さぬき市・東かがわ市

内容

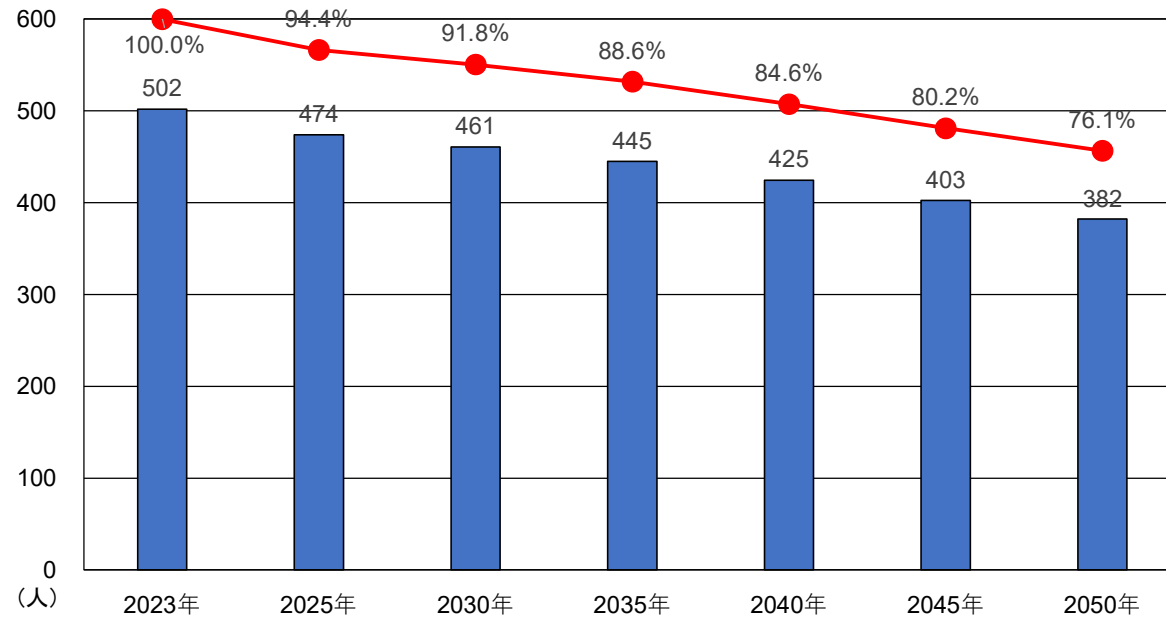
1. 歯科医療を取り巻く現状について
2. 現状を踏まえ、2040年を見据えた際の課題や今後起こるであろう変化等について
3. 現状や課題等を踏まえ、考えられる歯科医療提供体制の姿やそのために必要な対策等について
4. 当該分野・領域で、今後さらに発展すると考える治療内容等について
5. その他

将来推計検討会 報告書

公益社団法人香川県歯科医師会 将来推計検討会

令和6年12月26日

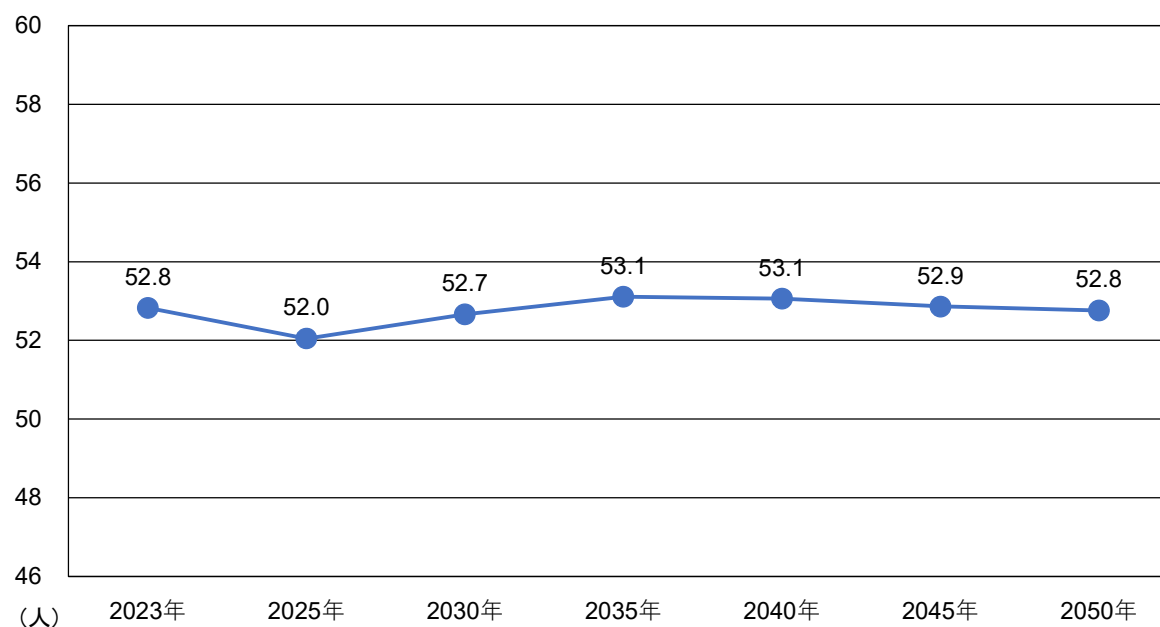
香川県歯科医師会会員の将来推計



棒グラフは推計会員数(人)
折れ線グラフは2023年を100としたときの指数(%)

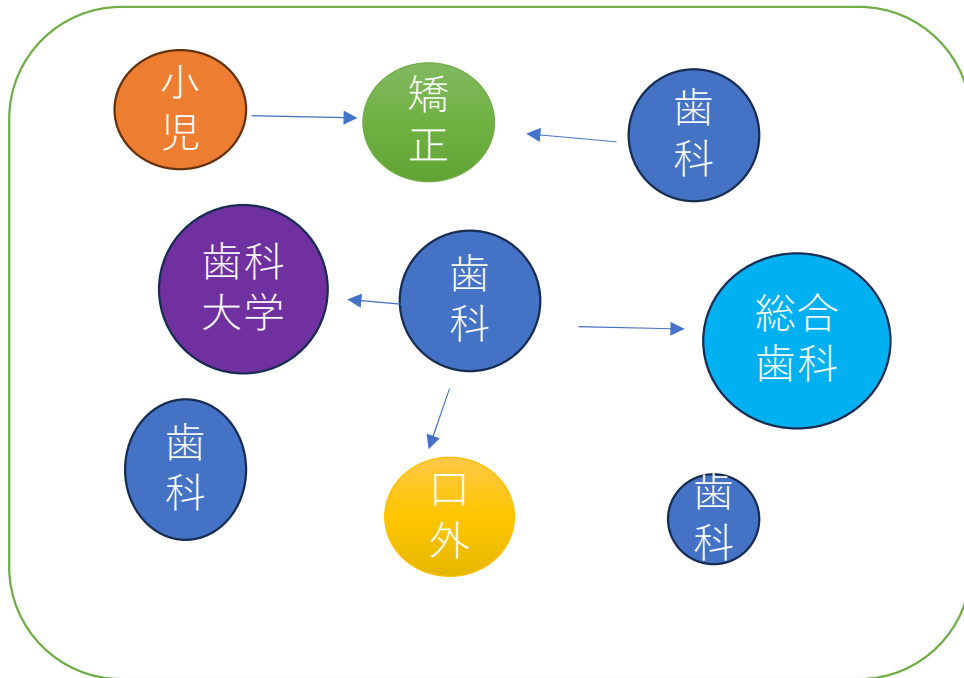
香川県人口10万人当たりの歯科医師会員数の将来推計

- 香川県の将来人口推計値と香川県歯科医師会員数の将来推計値を用いて、人口10万人当たりの歯科医師会員数の推計

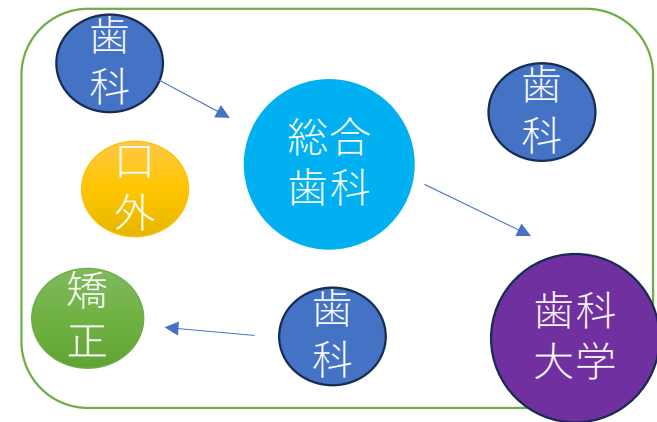


大都市と地方の比較→急激な少子超高齢化、地方の過疎化

大都市 人口多い



地方都市・郡部 人口少ない



地方では小児歯科、小児矯正歯科専門は無し

蓮井歯科のような総合歯科クリニックでは、認定医取得Drが一般歯科小児歯科を担当している

内容

1. 歯科医療を取り巻く現状について
2. 現状を踏まえ、2040年を見据えた際の課題や今後起こるであろう変化等について
3. 現状や課題等を踏まえ、考えられる歯科医療提供体制の姿やそのために必要な対策等について
4. 当該分野・領域で、今後さらに発展すると考える治療内容等について
5. その他

地域支援型歯科診療所の特徴

- 様々な疾患に対応が可能なワンストップサービスの窓口として「地域支援型歯科診療所」位置づけ診療、受け入れ困難な急患の受け入れも行い治療する。
- 診療所に対応可能な疾患、軽度、中程度の疾患を対象としている。たとえば外来での点滴治療できる骨膜炎や局所麻酔で可能か外傷手術、障害者歯科、高度のインプラントや困難な保存補綴処置を行い、重度の疾患を受け入れる入院施設のある3次医療機関との棲み分けを行う。
- 都市圏の歯科診療を地方の歯科診療は、大きく乖離しているため、高度な技術や専門性のある治療の両方兼ね備えた診療所を後方支援として配置する必要がある。

民間主導と歯科医師会主導の訪問歯科

- 訪問歯科診療を例にとると、民間主導では遠距離の訪問先は敬遠され、タイムパフォーマンスの高い訪問先（近距離の施設への訪問歯科診療）を好んで選択されることが多い。
- 距離に左右されることなく訪問診療を維持するためには、現在の地域の歯科医院（かかりつけ歯科診療所）を院長が高齢になっても窓口ととして頑張ってもらい、積極的な治療が必要になれば「地域支援型歯科診療所」が機材を持参して訪問診療または、搬送してもらい治療を行うようにする。
- 閉院間際の地域の歯科診療に活力のある診療をしてもらうため、高齢の院長が「地域支援型歯科診療所」とともに共同で診療している安心感が良い地域医療を支える。

行政主導または歯科医師会主導で 地域支援型歯科診療所の仕組み作り

- 地域のかかりつけ歯科診療所と連携をはかりながら、2次医療を担う後方支援をする歯科診療所の仕組みを作り、地方の患者は従来からの、かかりつけ歯科医で安心して歯科医療を受けながら困ったときには、地域支援型歯科診療所での治療を受けることができ、治療を終えたらまた、かかりつけ歯科医へもどる。

内容

1. 歯科医療を取り巻く現状について
2. 現状を踏まえ、2040年を見据えた際の課題や今後起こるであろう変化等について
3. 現状や課題等を踏まえ、考えられる歯科医療提供体制の姿やそのために必要な対策等について
4. 当該分野・領域で、今後さらに発展すると考える治療内容等について
5. その他

口腔内スキャナーによるAI診断

- 口腔内スキャナーによる咬合診断などを、ビッグデータを利用してAIによる診断をする。遠隔診断や診療が可能となる。



手術支援ロボットによる歯科口腔治療 (ダビンチのような機械)

- 歯は小さく、口腔内は狭い、ダビンチのような手術支援ロボットが開発されれば、手用ファイルを使用したエンド治療が画期的に向上する。極論ではあるが歯科医師自ら自分の歯の根管治療も可能になる、CTデータと重ねれば、現在インプラント治療で行っているようなガイド治療が可能となる。
- AIおよびデジタルがキーワード。義歯もCADで設計してCAMまたは3Dプリンターで作成することも近い将来可能となる。

内容

1. 歯科医療を取り巻く現状について
2. 現状を踏まえ、2040年を見据えた際の課題や今後起こるであろう変化等について
3. 現状や課題等を踏まえ、考えられる歯科医療提供体制の姿やそのために必要な対策等について
4. 当該分野・領域で、今後さらに発展すると考える治療内容等について
5. その他

歯科医師について

- 歯科医師の子弟が、歯科医師を希望しない。
- 歯学部を卒業しても、国家試験合格率は60%。
- 成績の優秀な子弟は医学部や他学部へ進学。
- 歯科医師になっても、都市圏で診療を希望して、地方の郡部での診療は好まない。
- → 医院承継は困難を極め、廃院へ至るケースが多い

歯科衛生士について

- 少子超高齢化にともない、18歳人口の激減、アフターコロナで都市圏への流出、医療費が上がらないので、他業種に比べ昇給が望めないため、歯科衛生士を希望する学生の減少、また一旦離職して他職種へ転職した者が戻ってこない。
- 高齢化率が高くなった地方では、有病率が高いため、歯科医師だけでは救急処置に対応できないため、ユニットごとに手術や処置をおこなっていることを勘案すると
- →ユニット数と同数の歯科衛生士が必要

歯科技工士について

- 近年、デジタル化が進み、歯科技工士の業務形態が大きく転換しようとしている。
- クラウンブリッジなど歯冠修復は、CAD/CAM冠などは制作過程で省力化が進んだが研磨の過程で人の手が必要。
- 義歯に関しては、ほとんど手作業で作成するため、熟練した歯科技工士が必要、こちらも高齢化しており後継者になる歯科技工士がいなくなっている。
- 歯科技工士養成校も定員割れが続き廃校しているところが多い。

まとめ

- 個人開業の歯科診療所を主体とした医療提供体制であるということが挙げられる。
- 香川県の過疎化地域では、都市圏では想像できなほど、急激な歯科医師の高齢化およびスタッフ不足が起きている。
- 医科の2次医療機関にあたる病院が不在で、すぐに3次医療機関の大学病院などへの紹介となり、軽症の歯科疾患の場合はハードルが高い、つまり「地域支援型多機能歯科診療所（医療機関）構想」が必要となる。
- 地域歯科医療を支える仕組み作りが急務である。